



全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。

どんな務めでも、心がけや取り組み方が違えば果たした務めの価値は違ってきます。司祭が急に呼ばれる場面と言え、病者の塗油だと思えます。「忙しいのに・・・」と心の中で考えて病者の塗油に出かけていくのと、「これは、イエスが言われた『病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ』（マタイ 25・36) に倣う絶好の機会だ」と思って出かけるのでは、果たした務めの価値は違うわけです。

「あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。」

(23・11) イエスの招きを真に理解するためには、「権威」は神お一人にあると、心から受け入れることが必要です。教会の中では「権威」は神のものです。それを心から受け入れる時、「権威」を振りかざし、言うだけで実行しない「なんもせんもん家」の司祭は長崎教区から居なくなるのだと思います。

年間第 32 主日(マタイ 25:1-13)